

第44回日本白内障学会・第20回日本眼内レンズ屈折手術学会合同会議



■事務局
第44回日本白内障学会・
第20回日本眼内レンズ屈折手術学会事務局
(株)ジェイコムコンベンション事業本部内
〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9
サンケイビル本館7階
TEL:06-6348-1391(代) FAX:06-6456-4105
E-Mail: cat-iol2005@jtbcom.co.jp
■主催
福井大学医学部眼科学教室・
京都府立医科大学眼科学教室

■会 期:2005年6月17日(金)~19日(日) ■会 場:国立京都国際会館

学会ホームページ:<http://www.cat-iol2005.jp>

本学会は第31回水晶体研究会・第21回日本眼科看護研究会を併催します。

招 待 講 演:「Haze in Surface Abation: Treatment and Prevention」

Steven E. Wilson (Cleveland Clinic)

「Implications of gene sharing: basic science thoughts applied to medicine」

Joram Piatigorsky (National Eye Institute / NIH)

特 別 講 演:「白内障手術とQuality of Vision」大鹿 哲郎(筑波大)

「グルコシルチコイド誘発白内障-鶏胚白内障モデルにおける発症過程の解析から予防法を探る」

西郡 秀夫(帝京大・薬学部)

基 調 講 演:「白内障の周術期治療」大橋 裕一(愛媛大)

市民公開講座:「屈折矯正手術『LASIK』のすべて」稗田 牧(京都府医大)

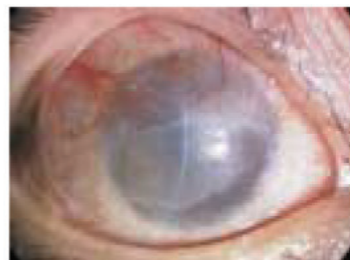
府立医大眼科は、H13年の第55回日本臨床眼科学会、H15年の第26回日本眼科手術学会に引き続いて、来年H17年に第20回日本眼内レンズ屈折手術学会を主催します。今回は第44回日本白内障学会を主催する福井大学医学部眼科学教室とともに合同開催という形をとっています。

本会は、「Crossing the Frontier」というキャッチフレーズの中に、2つの学会、2つの大学の境のみならず、医師とコメディカルといった職種の境を越えてより良いQOVを追求するという意味を含めており、会場参加型特別企画、11のシン

ポジウム、8つの教育セミナーをはじめとした、さまざまな新しい試みを企画しています。また、学会最終日には一般市民の皆様を対象とした市民公開講座を開催いたします。「光、ちゃんと届いてる?」をキャッチフレーズに、LASIKに関する素朴な疑問にエキスパートの先生が分かりやすく解説するほか、「これを見ればLASIKのすべてがわかる!」イメージビデオ上映などのイベントを予定しております。

(森和彦、東原尚代)

スティーブンス・ジョンソン外来開設



Stevens-Johnson (以下SJ) 症候群は突然の高熱で発症し、全身の皮膚・粘膜を傷害される重篤な疾患です。50%以上で薬剤が原因と推定されていますが、発症機序は未だ解明されていません。急性期(発症時)には皮膚とともに眼粘膜が傷害されて難治な眼表面びらんを形成し、しばしば角膜穿孔から完全失明に至ります。一方、慢性期(癒痕期)には著しい癒痕性角膜混濁が後遺症として残り、視力障害を生じます。本症候群に対する角膜移植は長らく禁忌とされてきましたが、当教室で開発した培養粘膜上皮シート移植はSJ症候群の視力予後を改善する治療として認めら

(第2木曜日、午後1時半から、完全予約制)

れつつあります。このような理由から、SJ症候群の患者様を多くご紹介いただくようになりました。本症候群の患者様より病歴を伺い、診察や検査を行った上で治療説明をするには、一人について少なくとも1時間を要します。そこで患者様と十分なコミュニケーションをはかるために昨年12月にスティーブンス・ジョンソン外来症候群外来を開設いたしました。眼瞼や角膜の癒痕性変化が強く、急な発熱や発疹の既往のある患者様がおられましたら、是非ご紹介ください。

予約は電話にて眼科津軽まで(075-251-5578)

(外園千恵)

調節外来の再開

(調節外来:第1・3・5週の月曜日、午後1時から、完全予約制)

近年、インターネットや携帯電話が急速に普及し、目の疲れを訴える方が増加しています。調節外来では、おもに眼精疲労や遠見視力障害を訴える患者さんに対し、原因の解明と、症状寛解を目的に対症療法を行なっております。また、頭頸部外傷症候群に代表される調節痙攣に対して、赤外線オプトメーター(AA-2000、図1)による調節機能検査を行ない、その調節パターンを他覚的に評価し、重症度の判定や経過観察に用いています。AA-2000は、オートレフラクトメータに調節測定

機能を付加した装置で、調節障害を臨床的に捕らえる方法として優れています。最近では、調節に伴って表れる調節微動の高周波成分の頻度を計測できるAA-1(図2)という新しい調節機能検査機器が登場しました。調節外来では、こういった検査機器を用いて病態を把握するとともに、患者さんの訴えに耳を傾け、信頼関係を築くよう心掛けております。より多くの患者さんをご紹介いただけましたら幸いです。

(東原尚代)



▲図1

図2▶

編集後記

5回目のEye Treat革命をお届けします。年2回発行していますので、早いもので3年目に入ったということになります。眼科の診療内容も日進月歩ですので、今回からデザインを一新してみました。日常診療のお役に立つことを願っています。(横井則彦、木下 茂)